第35回 ベルリン国際映画祭 国際評論家連盟賞受賞

第26回 ブルーリボン賞 最優秀作品賞

第12回 日本映画ペンクラブ賞 日本映画第1位

第38回 毎日映画コンクール 日本映画優秀作品賞

1985年 ロンドン国際映画祭 招待作品 作品賞

1985年 シドニー国際映画祭 招待作品 作品賞

1985年 モントリオール映画祭 招待作品 批評家協会賞

君は知っているか

敗戦の虚脱と混乱を、そして平和到来の歓喜を

昭和から平成を超え、令和に問いかけてくる、

何を裁き、何が裁かれなかったのかを

監督 小林正樹　音楽 武満徹　ナレーター 佐藤慶

東京裁判

4K デジタルリマスター版

総プロデューサー：足澤慎吉、須藤 博　エグゼクティブプロデューサー：杉山捷三（講談社）
プロデューサー：荒木正也（博報堂）、安武 徹
原案：稲垣 俊　脚本：小林正樹、小笠原 清（CINEA-1）
編集：浦岡敬一（CINEA-1）　編集助手：津本侵子、吉岡 聡、佐藤康雄
録音：酒崎英雄（CINEA-1）　録音助手：浦田和治　音響効果：本間 明　効果助手：安藤邦男
資料撮影：無村祐治（CINEA-1）　撮影助手：北村徳男、瓜生敏彦　ネガ編集：南 とめ　ネガ編助手：大橋富代
タイトル美術：日映美術　現像：東洋現像所　録音：アオイスタジオ　協力：博報堂
史実考査：一橋大学教授 細谷千博（現代史）、神戸大学教授 安藤仁介（国際法）
翻訳監修：山崎剛太郎　監督補佐：小笠原 清　助監督：戸井田克彦　製作進行：光森忠勝
ナレーター：佐藤 慶　音楽：武満 徹　指揮：田中信昭　演奏：東京コンサーツ
監督：小林正樹

デジタル修復補訂版 2018
デジタルリマスター監修：小笠原 清、杉山捷三
アーカイブコーディネーター：水戸慶平　フィルムインスペクション：千陽裕美子
デジタルレストレーション：黒木 恒、高橋奈々子、森下甲一　カラリスト：阿部悦明　音調調整：浦田和治
協力：独立行政法人国立映画アーカイブ　株式会社 IMAGICA Lab.　サウンドデザイン ユルタ　豊国印刷　バーミンガム・ブレーンズ・トラスト
特別協力：芸游会　企画・製作・提供：講談社　配給：太秦
©講談社 2018　1983 | 日本 | モノクロ | DCP | 5.0ch | 277分 |

INTERNATIONAL MILITARY TRIBUNAL FOR THE FAR EAST

www.tokyosaiban2019.com

『人間の條件』『切腹』の巨匠 小林正樹監督が
自らの戦争体験をもとに鎮魂の祈りを込めて綴った4時間37分
4Kデジタルリマスター版で鮮やかに蘇る

鎖国を解き、国際社会に勇んで出た日本。一等国にまで登りつめ、そして崩壊する。その崩壊から新しい出発へ、東京裁判は節目にあたる「史実」である。
この史実を理解することは、次世代が歴史に生きるということだ。

——— 保阪正康 現代史研究家 ノンフィクション作家

凝縮された、たった4時間の映像の密度に息もつけない！
人類はこの宿題に解を得ることができるのか、その苦悩のうちに滅亡するのか。
そして私は遂に哄笑してしまうのだ！

——— 麿赤兒 大駱駝艦主宰・舞踏家・俳優

『東京裁判』は二度観るべし。今この時代に、重く響く。
「戦争犯罪人」とは、何か。それを思うだけで、眩暈がする。そこには、具体的な、各々の価値観を生きた人間たちがいる。戦争という形で他者を蹂躙することを、当然のこととして、選択した者たちがいる。
被告どうしの「なすりあい」の醜さ。そして、「これは日本軍隊の組織の中に育まれた非人間性の表れであった」というナレーション。私たちは、その「非人間性」が現在の日本に温存されているという事実を、認めざるを得ない。

——— 坂手洋二 劇作家・演出家・燐光群主宰

この作品は公開の度に「今、なぜ東京裁判か」と、問われ続けてきた。
法廷で明るみに出された第2次世界大戦の実態と、責任追求の現実を映像に収めた映画『東京裁判』は、常に「今こそ見るべき映画」として存在し、回答の任を果たしてきた。
そして今日、劣化の影響が著しかった歴史映像や音声が、デジタルリマスター版により鮮やかに回復された。
臨場感に満ちた完成品としてこれが公開されることは、製作スタッフ一同の本懐でもある。

——— 小笠原清 監督補佐・脚本・デジタルリマスター監修

『プライド 運命の瞬間』を作る時、私は本作を反面教師とした。
構想や壮大、東京裁判を通観しつつも戦前史から戦後の動向までを一つの歴史解釈として提示する試み。だが、ドキュメントというには説明過多、解釈先行が惜しまれる。
私は劇映画ながら、弁論証言場面は裁判記録に拠り事実をもって事実のみを語らしめようとした。

——— 伊藤俊也 映画監督

人はどこからきてどこへゆくのか。そしてこの国はどこでどう変わってどこへゆくのか。リマスター版『東京裁判』を観ながら考える。僕たちが暮らすこの国の原点のひとつが、まさしくここにある。

——— 森達也 映画監督・作家

刮目すべき記録
「今後の世界平和のために」という美名のもと日本人たちを裁いた、その国々はそれまで何をして大国になり得たのか。その後少しでも世界を平和に導くことが出来たのか。欺瞞に満ちた裁判に憤りながら、では日本が歩むべき道筋とは、どんな形だったのだろう、と深く考えさせる記録。

——— ちばてつや 漫画家

真に偉大なドキュメンタリーである。日本は戦争に負けて民主主義が導入されたものの、戦後史の中でその民主主義の魂・精神が崩壊して行くが、そもそもの源が、極東国際軍事裁判に存在することが良くわかる。
日本の民主主義が未曾有の危機にある今こそ我々は、この作品＝歴史から学ぶべきことが山ほどある。

——— 原一男 映画監督

「勝者が敗者を裁く裁判」という形でしか清算できなかった大日本帝国。それでも東京裁判は、自由・平和・民主を基とする戦後日本の出発点であり、その「戦後」は今日まで続いている。今一度問われるべきなのは、大日本帝国が東京裁判で本当にすべて「清算」されたのかということだ。

——— 前川喜平 現代教育行政研究会代表

監督：小林正樹　音楽：武満徹　ナレーター：佐藤慶　企画・製作：講談社　配給：太秦

(C)講談社 2018　1983｜日本｜モノクロ｜DCP｜5.0ch｜277分｜　公式HP：www.tokyosaiban2019.com　Twitter：@tokyosaiban2019

令和元年8月3日(土)より ユーロスペースほか全国順次公開！

連日11:00より
途中休憩あり

ユーロスペース
EUROSPACE
03-3461-0211　www.eurospace.co.jp

ユーロスペース劇場トークイベント

※11：00回上映後
※イベント内容、登壇者は予告なく変更になる場合がございますので、予めご了承ください。

8/3（土）小笠原清（監督補・脚本家）、杉山捷三（エグゼクティブプロデューサー）
8/10（土）小笠原清（監督補・脚本家）、伊藤俊也（『プライド 運命の瞬間』監督）
8/15（木）栗原俊雄（毎日新聞学芸部記者／近現代史・論壇担当）

8月3日(土)より	横浜シネマリン	横浜	045-341-3180
	柏キネマ旬報シアター	千葉	04-7141-7238
	あつぎのえいがかんkiki	神奈川	046-240-0600
8月10日(土)より	高崎電気館	群馬	027-395-0483
	名古屋シネマテーク	愛知	052-733-3959
	シネマイーラ	浜松	053-489-5539
8月25日(日)より	東京都写真美術館ホール	東京	03-3280-0099
9月6日(金)より	キネカ大森	東京	03-3762-6000

劇場窓口でお買い求め頂くと、特製オリジナルポストカードプレゼント!!!
（一部劇場では取扱いがございません。）

特別鑑賞券￥2,000絶賛発売中！（当日一般￥2,500のところ）